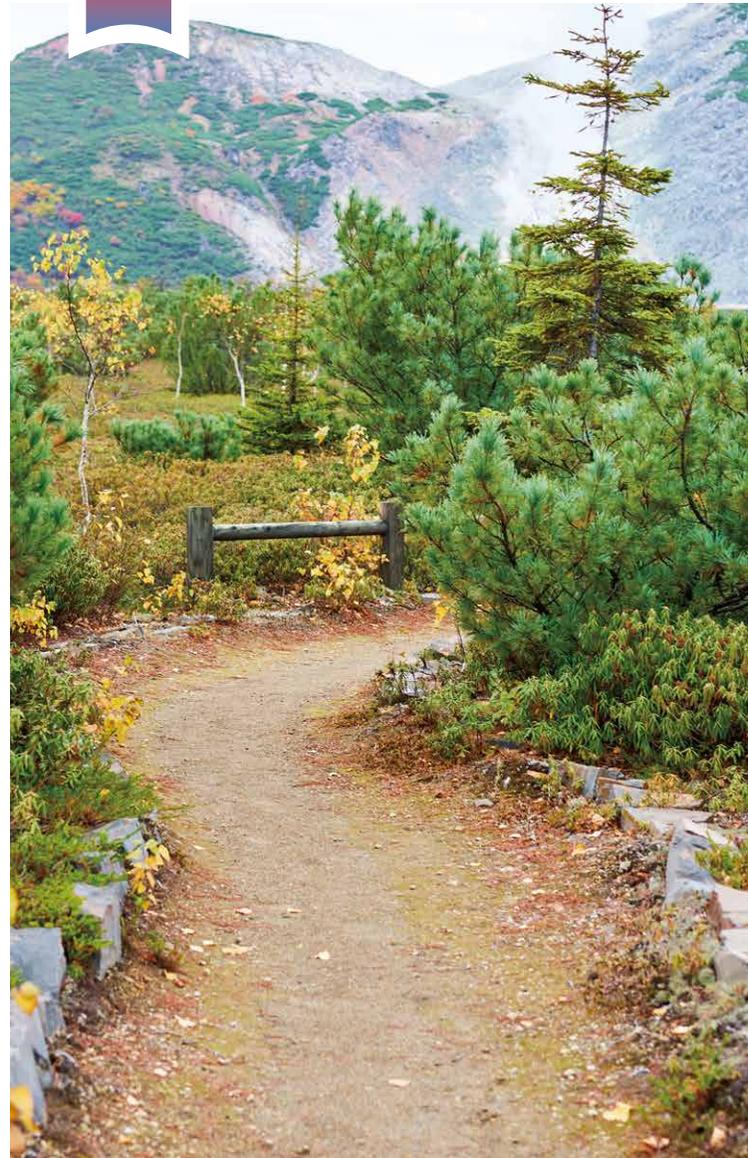


阿寒摩周国立公園

トレイルガイド

National
Parks
of Japan



<http://www.env.go.jp/park/guide/akan/index.html>



アイヌ紋様デザインは一般社団法人阿寒アイヌコンサルンの
認証を受けています。(2020.10)

【発行】環境省 阿寒摩周国立公園管理事務所

コースの詳細情報は、エコミュージアムセンターで得られます。
出典：基盤地図情報数値標高モデル(国土地理院)を加工して作成

2020.10

阿寒摩周国立公園へ ようこそ

阿寒摩周国立公園はその面積が914km²にも及ぶ広大な火山地帯です。その風景は何十万年も前の火山の大噴火の結果できたもので、活火山や多様な動植物、深い森やそれぞれに特徴を持つ複数のカルデラ湖を擁しています。このガイドでご紹介するトレイルを歩いて公園の魅力を存分に感じてみてください。

公園内には様々な距離や難易度の異なるトレイルがあり、家族連れで気軽に歩ける短距離の自然探勝路から、経験者向けのより歩き応えのある登山道まで幅広い選択肢があります。難易度の高い登山道を制するハイカーには広大なカルデラ地形の絶景が待っています。

こうしたトレイルを楽しむためにはまずはビジターセンターにお立ち寄りください。川湯エコミュージアムセンター、阿寒湖畔エコミュージアムセンター、和琴フィールドハウスでは、あなたに合ったおすすめの高キングコースや、ヒグマの目撃情報など必要な情報を入手できます。登山をする人は、安全のため必ず登山口にある登山者名簿に名前と登山計画を記入してから歩き始めるようにしましょう。

阿寒摩周国立公園の大自然の中で、思い出に残るすばらしい時間をお過ごしください。



阿寒摩周国立公園

原始的景観を有する歴史ある国立公園

千島火山帯の活動によってできた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ湖を中心に、火山と森と湖が織り成す美しい景色が魅力の国立公園です。阿寒湖を中心とした阿寒エリアと、屈斜路湖、摩周湖を中心とした摩周エリアに分かれ、登山やハイキング、カヌー、フィッシングなどのアクティビティのほか、阿寒湖温泉や川湯温泉などの温泉地巡りを楽しむこともできます。



目次

- トレイル利用にあたって 03
- グレーディングについて 04
 - 登山・散策に必要なもの
- ピクトグラムについて 04
- 1** ボッケ遊歩道 05
- 2** 白湯山自然探勝路 07
- Information 09
 - 雌阿寒岳と雄阿寒岳：夫婦の山
- Information 10
 - 活気あるビジターセンター
- 3** 雄阿寒岳登山道 11
- 4** 雌阿寒岳登山道 15
 - 4-1 阿寒湖畔コース 4-2 雌阿寒温泉コース
 - 4-3 オンネトーコース
- 5** オンネトー散策路 19
 - 5-1 雌阿寒温泉コース 5-2 東岸コース
 - 5-3 展望台コース 5-4 湯の滝コース
- Information 23
 - 阿寒摩周国立公園の3つのカルデラ
- 6** **7** 摩周岳・西別岳登山道 25
- 8** つつじヶ原自然探勝路 29
- Information 31
 - そびえ立つカツラの巨木
- Information 32
 - 火山のめぐみ ～温泉～
- 9** アカエゾマツの森散策路 33
- 10** 和琴半島自然探勝路 35
- 11** 藻琴山登山道 37
 - 11-1 スカイライン遊歩道コース
 - 11-2 登山道コース
 - 11-3 周回コース
- 公園内のビジターセンター 41
- 公園内のキャンプ場 43

トレイル利用にあたって

自然の中での活動は自己管理、自己責任が原則です。

自然の中には思わぬ危険や事故のリスクがあることを十分理解し、事前準備や体調管理等をしっかりとした上で、何かあった場合には自己責任という認識を持って、利用しましょう。

悪天候時には落石、倒木、落枝、土砂崩れなどが起こる可能性が高まるため、中止を含めて行動について慎重に判断してください。

- 自分の体力や体調、装備にあったレベルのコースを選んで歩きましょう。
- 山の天候は変わりやすいので、事前に十分な情報を収集しましょう。また、雨具などの装備を忘れないようにしましょう。
- 北海道の山は標高1,000m以下でも急激に気温が下がることがありますので、夏でも防寒着を忘れないようにしましょう。
- 登山道や散策路の途中には水場がありませんので、水は必ず登山前に用意しましょう。
- 登山道にはトイレがありません。入山前にトイレを済ませるとともに、長時間の行程に不安がある場合には携帯トイレを持参しましょう。なお、携帯トイレ用ブースはありません。
- 登山口にある登山者名簿に必ず記入しましょう。
- 登山道や散策路から外れないように歩きましょう。
- 全てのゴミは持ち帰りましょう。
- 野生動物に近づいたり、餌を与えないようにしましょう。
- 林道を車両で通行する場合は、車高の高い4WDが推奨されます。なお、林道は季節や道路状況に応じて閉鎖されている場合もあります。

■危険な動物等について

ヒグマ :クマ鈴やクマスプレーを携行しましょう。ヒグマに出会わないことが大切です。ヒグマは人間を避ける傾向がありますので、音をたてるなどして自分の存在を知らせましょう。

ダニ・アブ:長袖、長ズボンを着用し、肌が露出しないようにしましょう。虫除けも忘れずに。

スズメバチ:黒い服は避けるようにしましょう。もし威嚇されたら、白いタオルで頭と首を覆い、姿勢を低くし、ゆっくりと後ずさりしてその場を立ち去りましょう。

※キタキツネの糞便を介したエキノコックスの感染を防ぐために川等の生水を摂取しないようにしましょう。

■トレイルガイドの位置づけ

本ガイドは、阿寒摩周国立公園内で一般的に歩くことが可能なトレイルを環境省が紹介するものです。各トレイルの土地所有者、管理者はそれぞれ異なり、すべてを環境省が所有、管理するものではありません。各機関においても自己管理、自己責任を前提として利用者のために共用しており、登山中に起きた事故については一切責任を負いません。

グレーディングについて

グレード	グレード 1 散策	グレード 2 軽登山	グレード 3 日帰登山 ロングハイク
利用対象	・1時間程度で気軽に自然散策を楽しみたい方 ・ハイキングの経験がほとんどない方	・半日程度で登山を楽しみたい方 ・多少の登山経験がある方	・1日程度で本格的に登山を楽しみたい方 ・1日程度のロングハイクを楽しみたい方 ・登山・ロングハイクの経験がある方
体力的条件	所要時間 (起点までの移動時間含みます)	1時間(60分)程度以下	3時間(180分)程度以下
	距離	2km程度	2~6km程度
	標高差	平坦~200m程度	200m~300m程度
服装	帽子 歩きやすい服装 運動靴	帽子 登山の服装 登山靴	
基本装備	リュック・ゴミ袋・水筒・地図・雨具		
追加装備		・行動食 ・防寒具	・行動食 ・防寒具 ・ヘッドランプ ・携帯トイレ ・コンパス

このグレーディングは阿寒摩周国立公園内のトレイルに限定し適用されるものです。

ピクトグラムについて

	山小屋		キャンプ場		ビジターセンター
	宿泊施設		駐車場		情報コーナー
	休憩所/ベンチ		バス/バスのりば		温泉
	展望地/景勝地		お手洗い		高山植物

● 登山口 ○ 距離ポイント

1 ボッケ遊歩道



ボッケ遊歩道は、阿寒湖畔にある「まりもの里棧橋」から「阿寒湖畔エコミュージアムセンター」まで続いています。大きな木々に覆われた広い森は、約45分かけて歩くことができます。遊歩道の途中では、湖や野鳥、多様な植物、ボッケと呼ばれる泡立つ泥火山を見ることができます。

遊歩道の大きな見所の一つであるボッケは、アイヌ語のポフケに由来し、「煮え立つ場所」という意味があります。この自然現象は蒸気と火山ガスが地表の通気孔を通り、地下から吹き出すことで引き起こされます。ポコポコという音は、まるで地球の鼓動のようです。地球のエネルギーを体感できる不思議な空間を楽しんでください。

ボッケ遊歩道と合流する森のこみちは、広葉樹と針葉樹が混じる森の中を抜け、阿寒湖畔エコミュージアムセンターや阿寒湖畔第一駐車場まで続いています。コース沿いに設置された展示パネルには、コース内で目に見ることができるアカエゾマツやトドマツ、エゾマツ、カツラなどの木々や野生動物の解説が掲載されています。阿寒湖を展望できる場所もあり、森林浴をしながら阿寒の森を手軽に楽しめる散策路になっています。入口は急登ですが所要時間は20分から30分程度です。

距離	[合計] 約1.5km	時間	[合計] 45分
----	-------------	----	----------

 **グレード 1** 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

アクセス

釧路・釧路空港方面より(自動車の場合)

- 釧路市内→国道240号線(約1時間20分)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター
- 釧路空港→国道240号線(約1時間)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター

網走・女満別空港方面より(自動車の場合)

- 網走市内→国道240号線(約1時間30分)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター
- 女満別空港→国道240号線(約1時間)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター

注意事項

- 吹き出す泥の温度は100℃近くになります。危険なので柵の中には絶対に入らないでください。



2 白湯山自然探勝路



この自然探勝路の入口は国設阿寒湖畔スキー場です。スキー場までは阿寒湖温泉街から簡単にアクセスできます。標高およそ800mの白湯山展望台までの所要時間は1.5時間程度です。比較的簡単なコースですが、往路は登りが続きますので、歩き応えがあります。

はじめは見晴らしの良いスキー場のゲレンデを登ります。周辺には針葉混交林の森が広がっており、秋には針葉樹の緑の中に黄色や赤の広葉樹の葉が引き立ちます。途中からは森林のコースとなり、沢沿いにはポッケといわれる泥火山から流れ出る温泉の川を見ることが出来ます。ポッケとは蒸気と火山ガスが噴気孔をとおり地下から噴き出す際に、泥や水と一緒に噴き上がる現象で、ポコポコと音を立てます。この音は離れていても聞こえ、大地の鼓動を感じられます。

展望台に到着すると、阿寒湖や雄阿寒岳、雌阿寒岳を眺めることができます。阿寒湖畔の温泉街も小さく見えます。展望台を渡るさわやかな風が、登りの疲れを忘れさせてくれるでしょう。

展望台周辺の地面は標高が高いにもかかわらず地熱活動の影響により一年中暖かく、冬季も雪があまり積もらずに、温暖な土地に生えるコケ類等の生育を可能にしています。

距離	[片道] 約1.9km	時間	[登り] 1時間30分 [下り] 40分
----	-------------	----	-------------------------



グレード 2

半日程度の軽登山
山登りの装備はしていますか？

アクセス

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)

●白湯山登山口

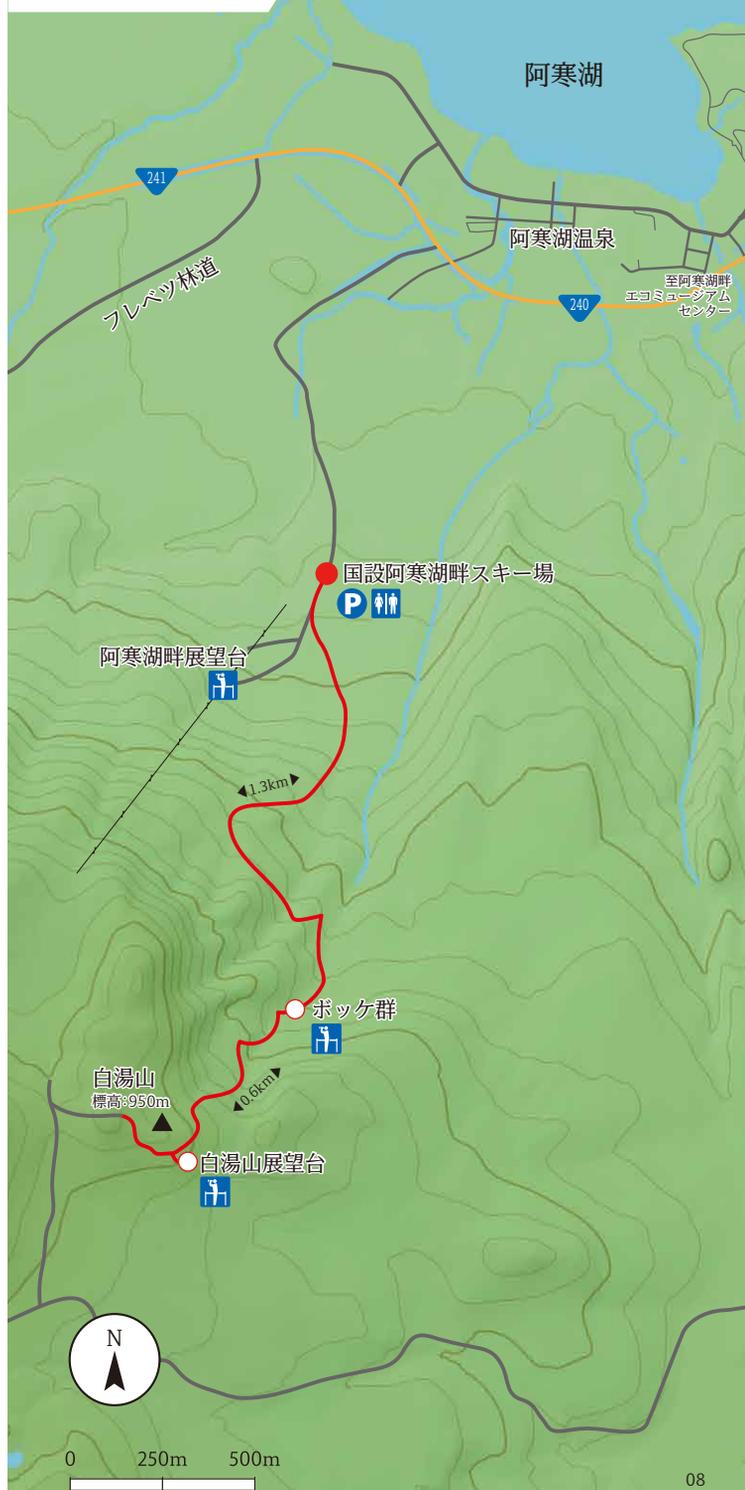
阿寒湖畔エコミュージアムセンター→国道241号線・阿寒湖畔スキー場方面(5分)
→阿寒湖畔スキー場

駐車場 阿寒湖畔スキー場駐車場 ……約50台

注意事項

■展望台付近の一部の場所では地熱の影響で年間通して地面があたたかくなっており、その環境に適した貴重なコケ類が生息しています。危険防止はもちろん、植生保護のためにも歩道から外れないよう気を付けましょう。

■スキー場のリフトは冬季のみの運行となります。(登山者の利用は不可)



Information

雌阿寒岳と雄阿寒岳:夫婦の山

この地域に暮らす人々の間では、雌阿寒岳^{p15}と雄阿寒岳^{p11}は夫婦だと考えられています。一般的には大きい方の山が妻だと考えられることが多く、雌阿寒岳(1,499m)は雄阿寒岳と比べて標高が高く、10の山頂を有しており、アイヌ語では「女の山」という意味で「マチネシリ」と呼ばれています。一方、雄阿寒岳(1,370m)は雌阿寒岳よりも標高が低く、山頂も1つだけしかなく、アイヌ語では「男の山」という意味で「ピンネシリ」と呼ばれています。

また、雄阿寒岳がおおよそ2,500年前に現在に近い姿となったのに対して、雌阿寒岳は主峰ポンマチネシリが3,000~7,000年前に、阿寒富士が1,000~2,500年前に形成され、現在の10の峰々が連なる姿になったと考えられています。

雌阿寒岳はオンネトーの西側の湖畔にある展望デッキから見上げることができ、雄阿寒岳は阿寒湖温泉街や阿寒湖畔から目にすることができます。雄阿寒岳はきれいな円錐状の山なので、簡単に見つけることができます。二つの山は距離は少し離れていますが、それぞれの山頂からは互いの美しい姿を見ることができます。



双岳台より。手前が雄阿寒岳、奥が雌阿寒岳。



Information

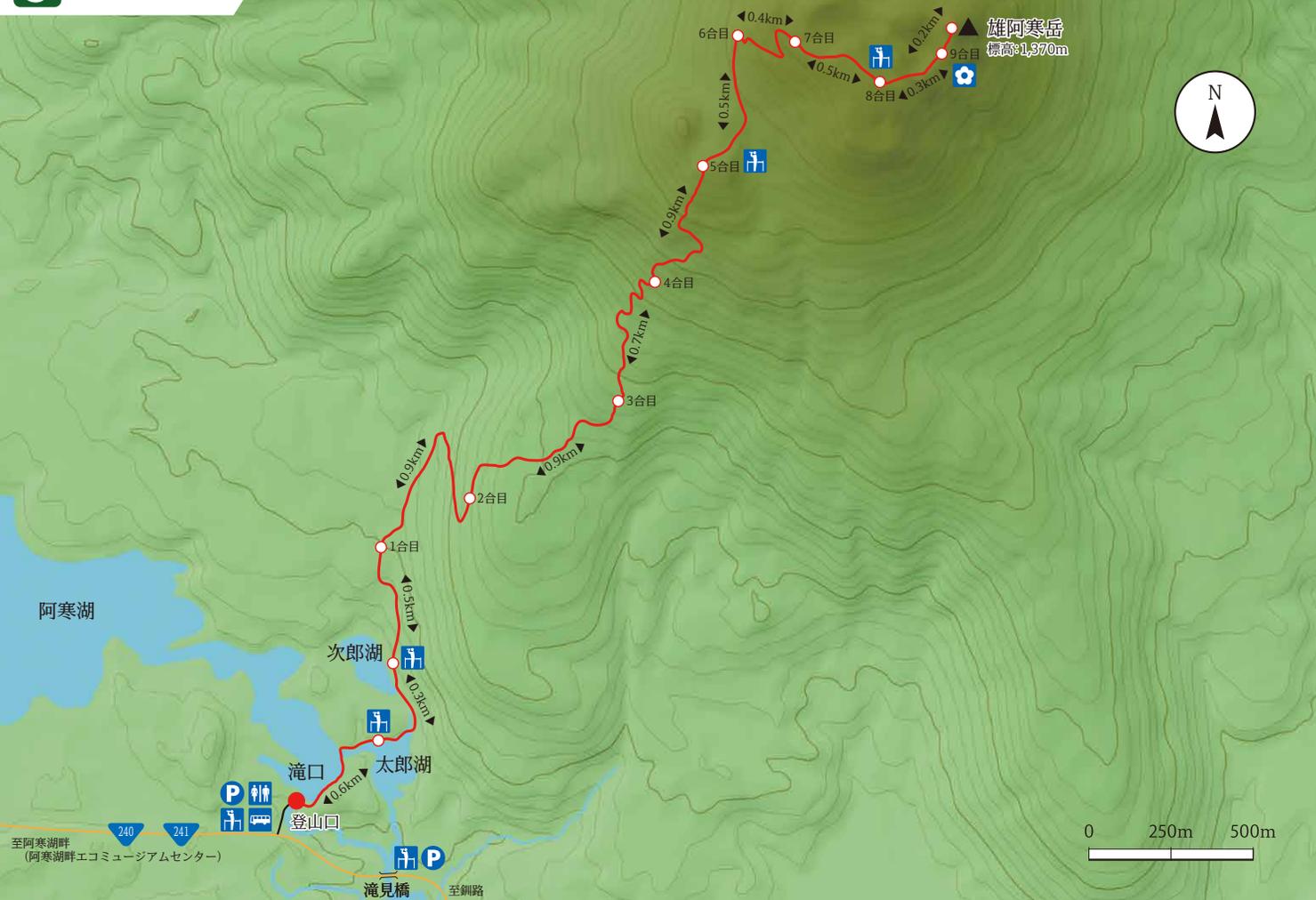
活気あるビジターセンター

阿寒摩周国立公園には、厳しい大自然が広がっており、火山の噴火や、ヒグマとの遭遇などの危険もあります。

ハイキングへ出発する前には、必ずエリア内のビジターセンター^{p41}に立ち寄りましょう。川湯エコミュージアムセンター、阿寒湖畔エコミュージアムセンター、和琴フィールドハウスの3つの主要なセンターでは、現地の自然に関する解説に加え、季節の花や登山道の状況、ヒグマの目撃情報などの最新の情報を発信しています。阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは、火山噴火の最新情報を提供しており、また、川湯エコミュージアムセンターでは、雨具やダウンジャケットなどをレンタルすることもできます。

エコミュージアムセンターのスタッフは、公園内の最新情報を提供し、利用者が安全に滞在するためのアドバイスをしています。ご不明な点があればスタッフへおたずねください。

川湯エコミュージアムセンターは、摩周エリアにある川湯温泉街の西側に位置し、阿寒湖畔エコミュージアムセンターは阿寒エリアにある阿寒湖温泉街の東側に位置しています。和琴半島自然探勝路のハイキングについてアドバイスが欲しい方は、和琴半島駐車場そばの和琴フィールドハウスにぜひ立ち寄ってみてください。



雄阿寒岳プロフィール

雄阿寒岳 (1,370m) は、阿寒湖の東部にあり、千島火山帯の西南端に位置する活火山で、阿寒カルデラの中央火口丘として約1万年前にその原形ができたと言われています。山頂からは、阿寒カルデラやカルデラ内の湖沼を一望できます。この山の魅力的な特徴は、標高によって育つ植物の層がはっきりと見られることです。標高1,000m付近までは日本でも数少ない原生林である針広混交林、1,000mからはハイマツ帯、そして山頂付近では様々な高山植物を見ることができます。雄阿寒岳の登山道は1つだけで、雌阿寒岳に比べると難易度が高く、登山経験がある方や、体力に自信のある方向けのコースとなっています。

周辺の植物



ミネズオウ
(開花時期 6月~8月)



イワウメ
(開花時期 6月~8月)



ガンコウラン
(開花時期 6月~7月)



ミネザクラ
(開花時期 6月~7月)



ツバメオモト
(開花時期 5月~6月)



エゾオオサクラソウ
(開花時期 5月~6月)

3 雄阿寒岳登山道



雄阿寒岳の登山道は長く、急勾配が続く厳しいコースですが、その充実感があります。登山口は国道240号線から入ってすぐの滝口にあり、そそり立つ雄阿寒岳を望む湖岸からスタートし、途中右手に太郎湖、やや進むと左手下に次郎湖があり、ここを過ぎるとトドマツを中心とした森に入ります。つづら折れの道を進み高度が増すと木々の向こうに阿寒湖が少し見えてきます。その先の急勾配を越えると5合目に出ますが、この辺りからはハイマツ帯となり展望が楽しめます。8合目には旧日本軍の気象観測所跡地があり、そこから20分ほどで山頂に到着します。

火山であるため山肌は大小の溶岩が積み重なってできていて、空洞や穴が空いている場所もありますので注意が必要です。

距離	[片道] 約6.7km	時間	[登り] 3時間20分 [下り] 2時間20分
----	-------------	----	----------------------------



グレード 3 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

アクセス

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからの行き方

●雄阿寒岳登山口

[自動車の場合]

阿寒湖畔エコミュージアムセンター→国道240号線を釧路方面(5分)→滝口

駐車場 雄阿寒岳登山口駐車場・・・約10台

滝見橋横駐車帯・・・・・・乗用車20台、大型2台

[阿寒バス 阿寒線の場合]

阿寒湖温泉→雄阿寒岳登山口(滝口)

注意事項

- ヒグマの出没が多い場所です。登山前に阿寒湖畔エコミュージアムセンターでヒグマの出没情報を確認し、十分に注意して向かいましょう。
- この登山道は自然公園法の特別保護地区内にあります。樹木の枝を折ることや植物を持ち帰ることは禁じられています。

見どころ 滝口

阿寒湖温泉から国道240号線を約3.0km釧路市方面に向かった場所にある庭園のような景観を楽しむことができる、阿寒湖を代表する景勝地です。雄阿寒岳の登山口になっています。



また、ここは阿寒湖の東南端にあたる入り江に接した地点で、阿寒湖で唯一の流出河口となっており、ここから流れ出した水が太郎湖の水と合流して阿寒川へ流れ出ている様子が滝のようであることから、このあたりは「滝口」と呼ばれるようになったと言われています。春にはエゾムラサキツツジ、夏にはハクサンシャクナゲ、秋には紅葉が映え、観光遊覧船のコースにもなっています。初冬の頃にはオオハクチョウも飛来し、自然豊かな観光スポットとなっています。

見どころ 太郎湖



滝口の対岸の水門から流れ出る川沿いに雄阿寒岳登山道を約0.6km進むと右手に「太郎湖」があります。太郎湖は阿寒湖の湖水が流れ込んでおり、コイやアメマスなどの淡水魚が棲んでいます。

今から約6千年前の雄阿寒岳噴火により阿寒湖が現在の形になった際にできたと考えられています。

見どころ 次郎湖

次郎湖は太郎湖から雄阿寒岳登山道を0.3km進むと左下に見えてきます。次郎湖は太郎湖に比べ周辺がうっそうとした針広混交林に囲まれているため、とても静かです。また、こ



こは流出河川などがなく、地下で太郎湖や阿寒湖とつながっていると考えられています。滝口から次郎湖付近にかけて6月中旬から7月下旬にはゴゼンタチバナやエゾオオサクラソウ、ツバメオモト、オオバナノエンレイソウ、ミヤマハンシヨウヅルなどの花が見られます。



雌阿寒岳・阿寒富士プロフィール

雌阿寒岳(1,499m)は阿寒摩周国立公園の中で最も標高が高い象徴的な火山で、現在も活発な火山活動を続けています。山頂へ続く登山道は全部で3つあり、いずれのコースも、エゾマツ、トドマツを中心とした森林を抜け、標高1,000mあたりでハイマツ帯となり、その先からは月面のような岩石と砂れき帯となります。メアカンキンバイ、メアカンフスマやコマクサなどの可憐な高山植物を見ることができ、天候が良ければ山頂からは阿寒湖を含むあたり一帯の山々を一望できます。また雌阿寒岳山頂からは、南側にある寄生火山の阿寒富士へ約2.5時間で往復することが可能です。阿寒富士の山頂からは全く異なる角度からの雌阿寒岳を眺めることができます。

周辺の植物



北海道 固有種
メアカンキンバイ
(開花時期 6月~7月)



北海道 固有種
メアカンフスマ
(開花時期 6月~7月)



ガンコウラン
(開花時期 6月~7月)



イワブクロ
(開花時期 6月~8月)



エゾイソツヅジ
(開花時期 6月~7月)



コケモモ
(開花時期 6月~8月)

4 雌阿寒岳登山道

4-1 阿寒湖畔コース

阿寒湖畔コースは、最も距離が長く緩やかなコースです。登山口はフレベツ林道内にあり、山頂までの所要時間は3~4時間ほどです。このコースからは、ナカマチネシリ



火口や阿寒湖、雄阿寒岳を望む素晴らしい景色を楽しめます。

森林限界を超え、ナカマチネシリ火口縁を通過した後、オンネトーコースに合流し山頂に至ります。

距離	[片道] 約6.3km	時間	[登り] 3時間30分 [下り] 2時間35分
----	-------------	----	----------------------------

 **グレード 3** 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

4-2 雌阿寒温泉コース

雌阿寒温泉コースは最も傾斜がきつ、所要時間が短いコースです。登山口は雌阿寒温泉の駐車場の近くにあり、アカエゾマツの森を抜けた後、勾配が急になります。



5合目からはオンネトーを一望でき、天候が良ければ、遠方が大雪山を拝むことも可能です。8合目以降は、岩がゴツゴツとした火山地形の急勾配なコースに変化し、9合目からは赤沼火口を見ながら山頂へ向かいます。

距離	[片道] 約3.3km	時間	[登り] 2時間30分 [下り] 1時間40分
----	-------------	----	----------------------------

 **グレード 3** 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

4-3 オンネトーコース

オンネトーコースは雌阿寒温泉コースと比べると、やや距離が長いコースです。登山口はオンネトー国設野営場の駐車場にあり、苔の生えた森の中を徐々に登って行き、8合目付近で分岐します。ここで、雌阿寒岳山頂へ向かうか、阿寒富士の山頂(1時間10分程度)に寄り道していくかを選ぶことができます。雌阿寒岳山頂に向かう最後の難所は、急勾配で滑りやすく注意が必要ですが、そこからはポンマチネシリ火口を眺めることができます。



距離	[片道] 約4.4km	時間	[登り] 2時間50分 [下り] 2時間
----	-------------	----	-------------------------

 **グレード 3** 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

アクセス

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)

- 雌阿寒温泉登山口
阿寒湖畔エコミュージアムセンター
→国道241号線・道道949号線(40分)→雌阿寒温泉
- オンネトー登山口
阿寒湖畔エコミュージアムセンター
→国道241号線・道道949号線(40分)→雌阿寒温泉(5分)→オンネトー国設野営場
※雌阿寒温泉～オンネトーは冬期閉鎖
- 阿寒湖畔登山口
阿寒湖畔エコミュージアムセンター→フレベツ林道(25分)→阿寒湖畔登山口

駐車場 雌阿寒温泉横駐車場・・・約60台
オンネトー国設野営場駐車場・・・約80台
阿寒湖畔登山口駐車帯・・・約4台
※スペースが限られていますので、無理な駐車はお控えください。

注意事項

- 登山前には必ず火山情報を確認してください。
- 火口付近を中心に現在も活発な火山活動が行われています。気象庁から噴火警報が発表された場合には入山規制がかかります。
- この登山道は自然公園法の特別保護地区内にあります。樹木の枝を折ることや植物を持ち帰ることは禁じられています。



5 オンネトー散策路

オンネトーの周りには、湖畔と雌阿寒岳の麓を覆うように4つの散策路があります。多様性に富んだ森の中を歩くコースや温泉の流れる滝まで歩くコース、雌阿寒岳とオンネトーを望む展望地まで登るコース、湖畔を散策するコースなど、それぞれのコースで異なった体験が味わえます。



5-1 雌阿寒温泉コース

このコースは雌阿寒温泉とオンネトーを結ぶように伸びており、所要時間は約50分です。散策路は途中で湖畔沿いにあるオンネトー東岸コースに合流します。

雌阿寒温泉を出発すると、散策路はアカエゾマツの純林を抜けていきます。アカエゾマツは、雌阿寒岳麓の火山性土壌でも成長できる数少ない樹木でもあります。オンネトーに近づいてくると、アカエゾマツに加えて広葉樹やその他の針葉樹が姿を現します。さらに土壌が豊かになるにつれて、森の中の広葉樹の比率が増加し、林床にはシダや苔、キノコなどが増えてきます。

距離	[片道] 約2.4km	時間	[片道] 50分
----	-------------	----	----------

 **グレード 1** 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

5-2 東岸コース

この散策路は、オンネトーの東岸に沿って伸びており、苔に覆われた森を歩きながら、オンネトーの景色を楽しむことができます。静かな湖畔を歩いていると、森の奥からクマゲラの声が聞こえてきたり、カワガラスがすぐそばの木の枝にとまってこちらの様子をうかがっていたりすることも。



錆色の水が溜まる錦沼の水がオンネトーに流れ込み、青色の湖と美しいコントラストを作り出す場所は、いつものオンネトーとは異なる姿が印象的です。また、5月には白い花を咲かせるミズバショウを見ることができます。コースの所要時間は約40分です。

距離	[片道] 約1.9km	時間	[片道] 40分
----	-------------	----	----------

 **グレード 1** 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

5-3 展望台コース

オンネトー展望台コースは、湖畔の展望デッキそばのトイレの横から登り始め、広葉樹と針葉樹の険しい森の中を抜けるコースです。道中では鳥やリスなどの野生動物を目にすることもあります。コースを0.8kmほど登ると、オンネトーや雌阿寒岳、阿寒富士を一望できる休憩所が現れます。雌阿寒岳に登る時間はないが、少し高いところから景色を楽しみたい人にはお勧めのコース。アップダウンの激しい箇所もありますが、所要時間は約40分です。



距離	[片道] 約2.3km	時間	[片道] 40分
----	-------------	----	----------

 **グレード 2** 半日程度の軽登山
山登りの装備はしていますか？

5-4 湯の滝コース

このコースの見所は何と言っても、雌阿寒岳から噴出した溶岩流の亀裂から湧出した温泉が、約30mの高さから流れ落ちるオンネトー湯の滝です。源泉付近の温度は30度~40度程度ですが、岩の上を流れたり、滝壺にお湯が落ちることでその温度は下がっていきます。



湯の滝は、乾電池等の製造に使用される鉱物である二酸化マンガが地上に自然発生する世界でも数少ない場所の1つです。通常、マンガン鉱物は深海で発見されることが多いとされていますが、ここで見られるマンガン鉱床の規模は比類なく、マンガン形成過程の研究にとって世界的に重要な場所となっています。湯の滝は2000年に国の天然記念物に指定されました。

滝へは、オンネトー国設野営場から続く広くなだらかな林道を歩いて行きます。道中では、鳥やリス、鹿などの野生動物を目にすることができるかもしれません。所要時間は往復約1時間20分です。

距離	[片道] 約1.4km	時間	[片道] 30分
----	-------------	----	----------

 **グレード 1** 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

アクセス

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)
●阿寒湖畔エコミュージアムセンター→国道241号線・道道949号線(45分)→雌阿寒温泉・オンネトー周辺駐車場
駐車場 雌阿寒温泉横駐車場……………約60台
オンネトー湯の滝コース入口駐車場……………約30台
オンネトー国設野営場駐車場……………約80台

阿寒摩周国立公園の3つのカルデラ

阿寒摩周国立公園の地形は何十万年にも及ぶ火山活動によって形成されており、その中には3つの大きなカルデラ(火山口が崩壊した時に形成される大きなクレーター)があります。南西部の阿寒カルデラ、北部の屈斜路カルデラ、北東部の摩周カルデラにはそれぞれ阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖という同名の湖が点在しています。

阿寒カルデラは数十万～15万年前に形成されたカルデラで、雄阿寒岳や雌阿寒岳、フップシ岳などの火山があります。また、カルデラ内には大きさの異なる約10の湖が点在しており、それらの多くはカルデラ内の火山が噴火した際にできたと言われています。その中でも最も大きいカルデラ湖である阿寒湖の面積は13km²です。

白湯山と雌阿寒岳の山頂からは阿寒湖を一望でき、雄阿寒岳の山頂からはその他の湖を目にすることができます。さらに、阿寒湖南部の湖畔では、火山地域に特徴的なボコボコと湧き出るボッケ(泥火山)が観察できます。

屈斜路カルデラは約13万年～10万年前に発生した大規模な火山噴火によって形成されたカルデラで、この中にある80km²にもなる屈斜路湖は日本一大きなカルデラ湖です。

藻琴山の山頂からは、屈斜路湖やその周辺の火山地形を一望できます。また、湖畔の景色を楽しむには和琴半島一周コースが最適です。半島先端にある今でも活発に煙を上げる噴気孔を崖の上から見るができます。

3つのカルデラの中で摩周カルデラは最も若く、約7,000年前に形成されました。このカルデラいっぱいに蓄えられた摩周湖(19km²)の水は、世界でも有数の透明度を誇ります。

摩周湖の東端にある摩周岳からは湖や周辺エリアを一望でき、カルデラ湖の端から摩周岳の山頂まで続く摩周岳登山道の途中には見晴らしの良いスポットが点在しています。また、その近くにある西別岳の山頂からも湖を見渡すことができます。摩周岳と西別岳は縦走することも可能です。

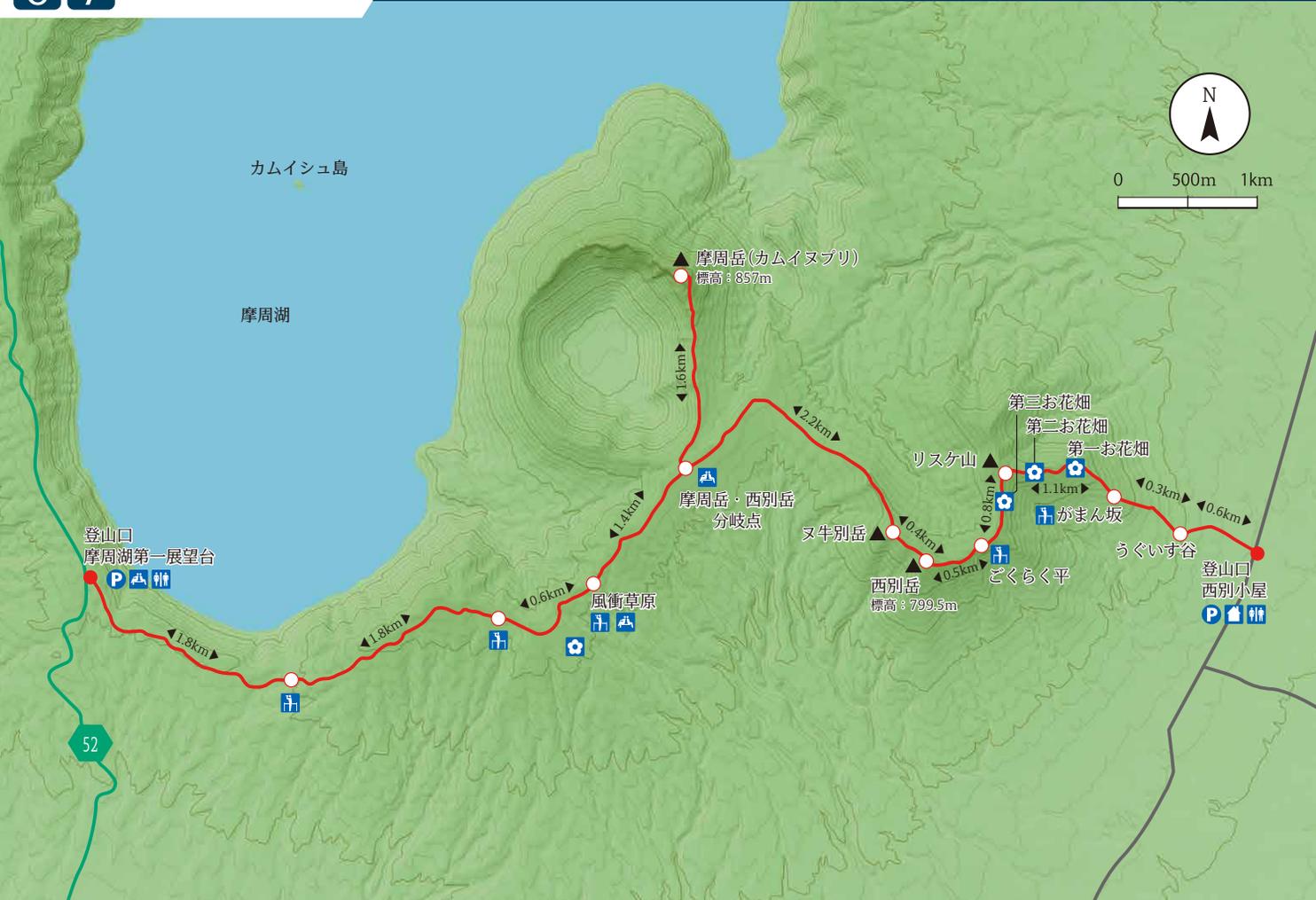


摩周カルデラ



阿寒カルデラ





摩周岳・西別岳プロフィール

摩周岳は世界で有数の透明度を誇る摩周湖の東の端に位置しています。標高857mの頂上からは、車でアクセスできる展望台から見る摩周湖とは異なる姿が見られ、また、摩周湖と知床半島に位置する標高1,547mの斜里岳を含めた、周辺の壮大な火山地帯を眺めることができます。摩周岳の山頂へ続く急登の手前にある分岐点から伸びる道は西別岳へと続いており、縦走にチャレンジすることも可能です。

西別岳は標高799.5mの低山ですが、頂上からは摩周湖や摩周岳の眺望のほか、広大な根釧台地や雄阿寒岳、雌阿寒岳、知床連山、国後島までも遠望することができます。通称「がまん坂」と呼ばれる急傾斜がありますが、比較的登りやすく、またヨツバシオガマやヒオウギアヤメをはじめとする高山植物は数多く、標高1,000mの藻琴山^{p37}と比較しても多く咲き誇っており、西別岳の特殊性をうかがうことができます。

周辺の植物



ウメバチソウ
(開花時期 8月～9月)



トウゲビキ
(開花時期 8月～9月)



チシマフウロ
(開花時期 6月～8月)



ヨツバシオガマ
(開花時期 6月～8月)



エソツツジ
(開花時期 7月～8月)



ヒオウギアヤメ
(開花時期 6月～8月)

6 摩周岳登山道



摩周岳はアイヌ語で「カムイヌプリ」(神の山)と呼ばれ、アイヌの人々に崇拝されてきた山です。この山へ向かう登山道は、深い青色をしたカルデラ湖である美しい摩周湖に沿って進み、ダケカンパの林や夏には高山植物が美しい草原を抜け、巨大な爆裂火口を左手に見て最後には急勾配の坂を一気に登って標高857mの頂上へと到達します。登山道には複数のビューポイントがあり、形を変える摩周湖の美しい姿と、透き通った湖面、そして阿寒摩周国立公園を形成する壮大なカルデラ地形などを楽しむことができます。

摩周岳の頂上から1.6kmほど手前には西別岳へ続く道の分岐点があり、本格的なハイカーは一度に両方の山を歩くことができます。夏の中旬から下旬には、マダニやアブがいますので長袖長ズボンの服装で登りましょう。

距離	[片道] 約7.2km	時間	[登り] 2時間30分 [下り] 2時間
----	-------------	----	-------------------------



グレード 3 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

アクセス

川湯エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)

●川湯エコミュージアムセンター→道道52号線(約30分)→摩周湖第1展望台登山口

注意事項

- 山頂付近では強風に見舞われる場合があります。天候を伺いながら慎重に行動しましょう。
- 爆裂火口付近の登山道には立ち入り禁止の箇所があります。滑落の危険がありますので、絶対に入らないでください。
- この登山道は自然公園法の特別保護地区内にあります。樹木の枝を折ることや植物を持ち帰ることは禁じられています。

7 西別岳登山道



西別岳登山道の主要な見所は、西別岳山頂799.5mからのパノラマの眺望と、6月から7月にかけて山の斜面を鮮やかに彩る高山植物の花々です。

西別小屋の駐車場から山頂までの登山道は経験の浅いハイカーには厳しい登山となるでしょう。登山道はところどころ岩が多く狭くなっています。がまん坂とはうまく名付けられたもので、登り始めの非常に急な部分は試練と言えます。試練を乗り越えた後には、高山植物のお花畑がハイカーを出迎えてくれます。

壮大で思い出に残るトレッキングにするには、摩周岳と西別岳の縦走にチャレンジしてください。周回コースではないので、どちらかの登山口(西別小屋または摩周湖第一展望台)に交通手段を準備しておくことを忘れないようにしましょう。

距離	[片道] 約3.3km	時間	[登り] 1時間30分 [下り] 1時間
----	-------------	----	-------------------------



グレード 3 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

アクセス

川湯エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)

●川湯エコミュージアムセンター→
国道391号線・243号線・道道885号線・林道(約1時間40分)→西別岳山小屋登山口

注意事項

- この登山道の付近には希少性が高い高山植物が生えています。植生を荒らさないよう登山道を踏み外さないようにしましょう。

8 つつじヶ原自然探勝路



つつじヶ原自然探勝路は異なる3つの風景を通り抜ける心地よいハイキングコースです。アカエゾマツの高木やミズナラが繁茂する森からスタートし、ハイマツの低木やイソツツジやガンコウランなど、通常は低地では見ることの出来ない高山植物の草地に入っていきます。コースの終点は硫黄山(アトサヌプリ)の麓です。活火山である硫黄山は、1,500以上の噴気孔(地表の裂け目)から噴気を上げ、山肌には目を見張るほど鮮やかな黄色をした硫黄の結晶を数多く見ることができます。このコースは全体を通して、起伏のない平坦な道が続いています。硫黄山の麓から10分ほどの所にハイマツデッキという名の展望台があり、そこからは、周囲の火山地帯を見渡す事ができます。6月下旬から7月初旬にかけては、コース沿いにイソツツジが白く咲き誇ります。イソツツジテラスと呼ばれる休憩スペースもありますので、是非ゆっくりと100haに及ぶ白いカーペットのようなお花畑と荒涼とした岩肌の硫黄山のコントラストをお楽しみください。

距離	[片道] 約2.6km	時間	[片道] 1時間
----	-------------	----	----------



グレード 1 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

アクセス

釧路・釧路空港方面より(自動車の場合)

- 釧路市街→国道391号線(約1時間40分)→川湯エコミュージアムセンター
- 釧路空港→道道53号線・国道391号線(約1時間30分)→川湯エコミュージアムセンター

網走・女満別空港方面より(自動車の場合)

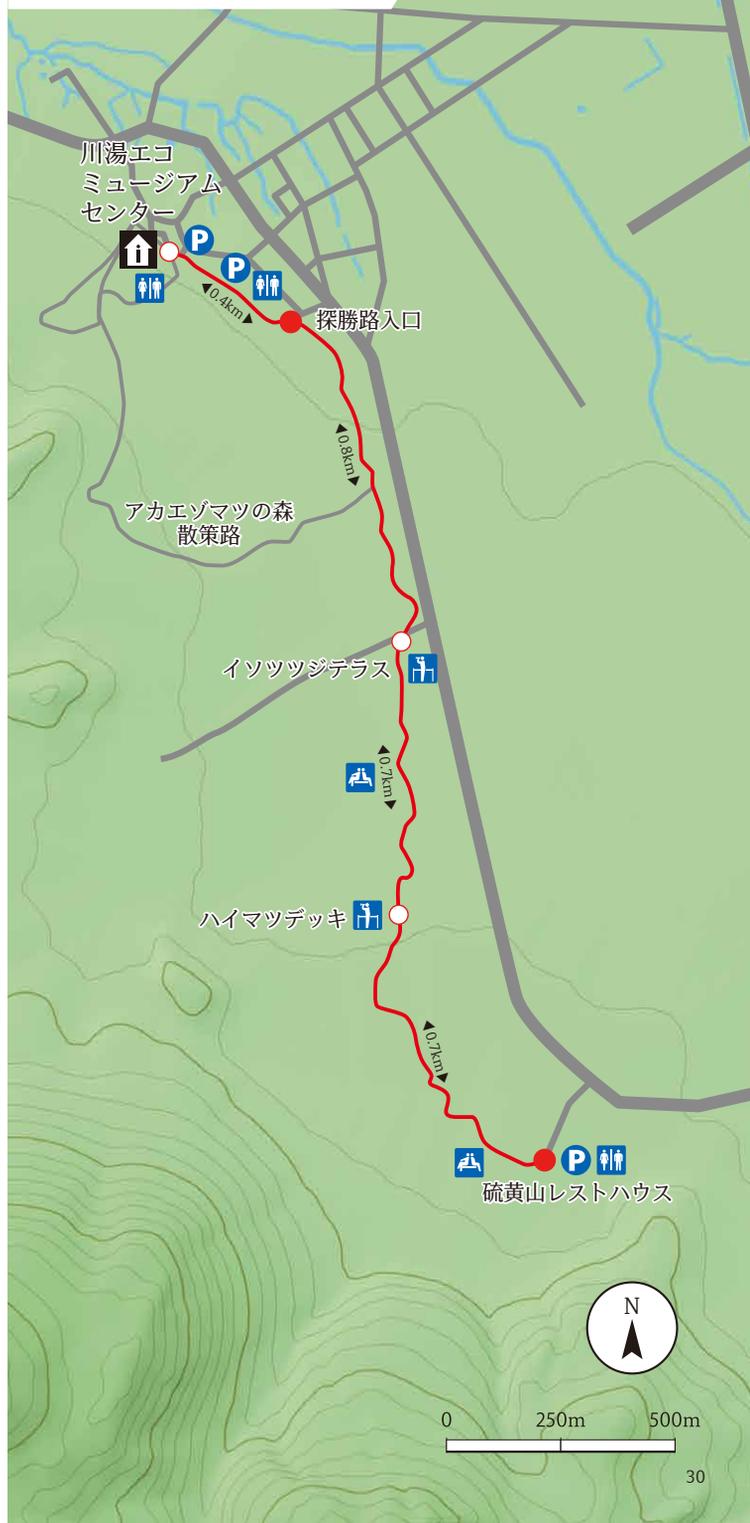
- 網走市街→国道244号線・国道391号線(約1時間10分)→川湯エコミュージアムセンター
- 女満別空港→国道243号線・道道52号線(約1時間50分)→川湯エコミュージアムセンター

中標津方面より(自動車の場合)

- 中標津空港→道道13号線・国道243号線・391号線(約1時間30分)→川湯エコミュージアムセンター

注意事項

- この地域は他の地域には見られない植生が広がっています。壊すことがないように探勝路を踏み外さないようにしましょう。
- この探勝路は自然公園法の特別保護地区内にあります。樹木の枝を折ることや植物を持ち帰ることは禁じられています。





Information

そびえ立つカツラの巨木

公園内を歩きながらカツラ(学名:*Cercidiphyllum japonicum*)の木を探してみてください。日本や中国に自生するカツラは、花をつける落葉樹で15m以上の高さに成長することもあります。

カツラの若木は、古い幹から生え育ちます。この若木が幹になり、古い幹を取り囲むように成長して行きます。そのため、もとなる古い幹が枯れても、木としては再生・成長し続けるのです。春にみられるカツラの新芽は鮮やかな赤紫色で、夏には緑の葉となり、秋には黄色へと変化します。落葉すると、キャラメルや、綿菓子、黒砂糖に似た独特の甘い香りを放ちます。

和琴半島ではカツラの木を多く見ることができます。和琴半島自然探勝路^{p.35}からは、カツラの他にも、トドマツやハリギリなどの大きな木や、ヒトリシズカやマイヅルソウなどの季節の可憐な草花に出会うことができます。また、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖の眺望もお楽しみいただけます。

Information

火山のめぐみ ～温泉～

阿寒摩周国立公園は全体がカルデラになっており、地下に存在するマグマの影響で至るところに源泉がある温泉天国です。阿寒湖温泉や川湯温泉には温泉旅館やホテルが並び、古くから多くの観光客で賑わってきました。

ハイキングの後に気軽に立ち寄れる温泉も豊富です。雌阿寒岳の麓の雌阿寒温泉は、硫黄の香りが強い特徴的な泉質で、世界最高齢を記録した男性が経営していたことで長寿の湯としても有名です。阿寒摩周国立公園の中では登りごたえがある雌阿寒岳コースを登った後の疲れた身体を癒すには最適な温泉です。

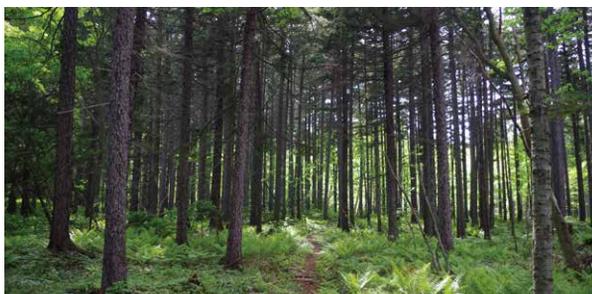
屈斜路湖畔沿いでは、至る所で温泉が湧き出ています。和琴半島、池の湯、コタンでは湖に面したワイルドな露天風呂が楽しめます。砂湯では、その名の通り湖岸沿いの砂を掘ると温泉が湧き出てきて、その場で自分だけの足湯を作って遊ぶこともできます。イチゴなど温泉の熱を利用した特産品の栽培も行っており、火山のめぐみをたくさんの方所で感じることができます。

川湯温泉の中央には、岩盤の上を流れる温泉川に直接足をつけているような風情ある足湯があります。約3km離れた硫黄山の地下で熱せられて蒸気とともに上がってきた温泉は、つじヶ原の地下を流れて川湯温泉のところで地表に湧き出ています。豊富なお湯が川となり、立ち昇る湯気と温泉の香りが川湯温泉街を彩ります。



屈斜路湖畔のコタン温泉

9 アカエゾマツの森散策路



アカエゾマツの森を抜ける60分(2.2km)ほどの散策路は、川湯エコミュージアムセンターの裏手に出発点があります。北海道に自生するアカエゾマツの樹皮は赤褐色で、樹高は30mにも成長します。この森には樹齢150-200年にもなるアカエゾマツが数多くありますが、養分の乏しい火山地帯の土壌であることを考えると驚くべきことです。アカエゾマツの幹は、エゾリスや、クマゲラといった様々な野鳥など、野生動物たちの住処となっています。

森を歩きながら、木の幹に空いた大きな楕円形のクマゲラの採餌痕や6月中旬に白い可憐な花を咲かせるゴゼンタチバナの群落を探してみてください。ゴゼンタチバナは8月から9月には白い花の代わりに鮮やかな赤い実で目を楽しませてくれます。

アカエゾマツの森には小さなお子さんと旅行をされている方にぴったりな、所要時間 20分(0.8km)ほどの短いコースもあります。また、川湯エコミュージアムセンターのスタッフによる無料のガイドツアーもありますので、解説を聞きながら森歩きを楽しみたい方はセンターのカウンターでお申し込み下さい。

距離	[一周] 約2.2km	時間	[一周] 1時間
----	-------------	----	----------



グレード 1 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

アクセス

釧路・釧路空港方面より(自動車の場合)

- 釧路市街→国道391号線(約1時間40分)→川湯エコミュージアムセンター
- 釧路空港→道道53号線・国道391号線(約1時間30分)→川湯エコミュージアムセンター

網走・女満別空港方面より(自動車の場合)

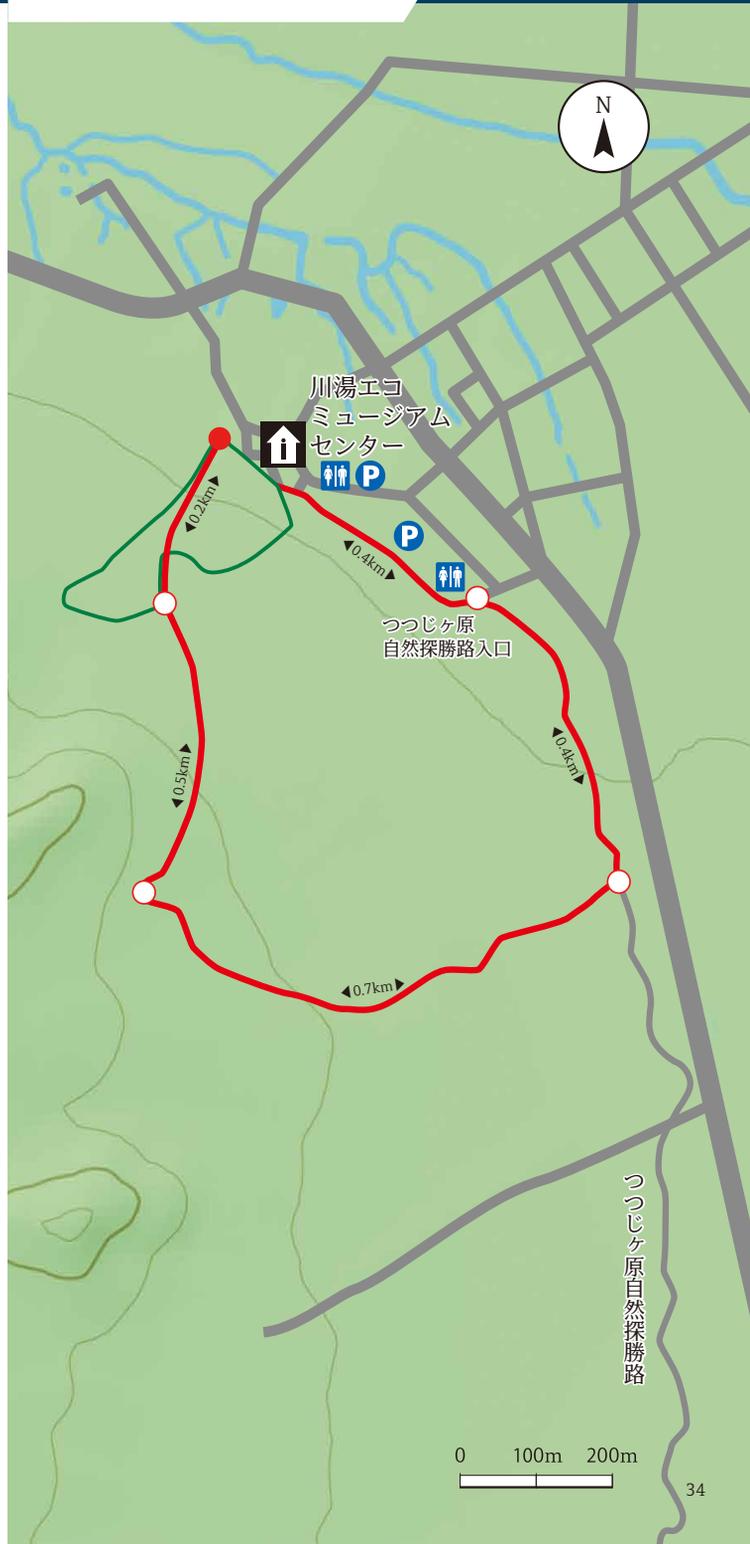
- 網走市街→国道244号線・国道391号線(約1時間10分)→川湯エコミュージアムセンター
- 女満別空港→国道243号線・道道52号線(約1時間50分)→川湯エコミュージアムセンター

中標津方面より(自動車の場合)

- 中標津空港→道道13号線・国道243号線・391号線(約1時間30分)→川湯エコミュージアムセンター

注意事項

- 森の中には倒木などの危険木が存在しています。安全に利用するため探勝路を外れないよう歩きましょう。



10 和琴半島自然探勝路



和琴半島は、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖に突き出していますが、もともとは火山活動によって生まれた島が陸続きになってきました。この半島を1周する2.5kmの自然探勝路では、トドマツの森、カツラの巨木やオヤコツ地獄などを楽しむことができます。オヤコツ地獄は、半島の先端にある噴気孔で、赤い岩壁の割れ目から蒸気が噴き出しています。このエリアの地熱活動が生み出す熱は、周辺の森の生態系に直接影響を及ぼしています。野の花が豊かに育ち、夏には北海道東部では他に見ることのできないミンミンゼミが鳴き、冬には雪に覆われない土の上でコオロギの仲間であるマダラスズが活発に活動しています。

その他に注目すべき野生生物はクマゲラです。日本の先住民アイヌの人たちは、クマゲラを「舟を彫る神」として崇拝していました。言い伝えによると、アイヌの人々は、クマゲラによって木の幹に作られた穴に着想を得て丸木舟(伝統的なアイヌのカヌー)を作ったとされています。

和琴自然探勝路は約1時間のコースですが、途中起伏の大きい場所もあります。半島は時計回りでも、反時計回りでも巡る事ができますが、オヤコツ地獄付近の長い階段を考えると、時計回りの方が比較的楽なコースと言えるでしょう。探勝路入口には天然の露天風呂があり、歩いた後はここでリラックスする事もできます。

距離	[一周] 約2.5km	時間	[一周] 1時間
----	-------------	----	----------

 **グレード 1** 1~2時間の気軽な散策
動きやすい服装で歩きましょう。

アクセス

川湯エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)
●川湯エコミュージアムセンター→道道52号線・国道243号線(約30分)→和琴半島

注意事項

- 探勝路内にある展望デッキからは飛び降りないようにしましょう。
- 危険木や貴重な植物がありますので、探勝路を外れて湖に降りないようにしましょう。





藻琴山プロフィール

藻琴山は標高1,000mと屈斜路カルデラ外輪山で最も標高が高く、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖を眺めるには最高の場所です。また山頂からは、遠く知床の山々やオホーツク海の絶景を望むことができます。

ウグイスの声を聞きながら季節の花も楽しめる登山道が整備されていて、コースのバリエーションも豊富な魅力的な山です。

主なコースは、スカイライン遊歩道、登山道、そしてこの2つのコースに銀嶺水遊歩道、トドマツ遊歩道の一部と望岳台遊歩道を繋いで藻琴山を周回するコースです。

コース沿いには自動車で入ることの出来る主な登山口が2箇所あります。一つはスカイライン遊歩道の入口となる「ハイランド小清水725」、もう一つは登山道の入口となる「銀嶺水」です。ハイランド小清水725には展望台とカフェがあり、銀嶺水には天然の湧水と山小屋、ハイオトイレがあります。

周辺の植物



ツマトリソウ
(開花時期 6月)



コケモモ
(開花時期 6月～7月)



ウコンウツギ
(開花時期 6月～7月)



ハクサンチドリ
(開花時期 6月～7月)



エゾノハクサンイチゲ
(開花時期 6月)



チシマガク
(開花時期 5月～6月)

11 藻琴山登山道

11-1 スカイライン遊歩道コース

藻琴山山頂までは、海拔725mの展望台と小さなカフェがあるハイランド小清水725から始まる約2.0kmのスカイライン遊歩道を登るのが一番容易なルートです。



ハイマツが遊歩道の両側に並び、藪の中に暮らす鳥たちのさえずりがあなたの旅のサウンドトラックとなるでしょう。登山口ではときどき野生のシマリスの姿が見られ、遊歩道沿いの茂った草木の間からはカルデラ地形の素晴らしい景色を見ることが出来ます。

遊歩道の半ばからは、ハイマツに代わりダケカンバが目立つようになります。ダケカンバの林を抜けると屏風岩と呼ばれるそびえ立つような岩が現れます。屏風岩から0.8kmほど行った地点には広場があり、最後の短い急登へと進む前に休憩をとることができます。

遊歩道の周りには様々な高山植物が生育し、山肌を四季折々に彩り、鮮やかに染め上げます。

距離	[片道] 約2.0km	時間	[登り] 1時間 [下り] 45分
----	-------------	----	----------------------



グレード 2 半日程度の軽登山
山登りの装備はしていますか？

11-2 登山道コース

銀嶺水登山口から藻琴山山頂を目指す30分ほどの一番短いコースです。登山口は、道道102号線(網走川湯線)の「藻琴山登山口」の看板を曲がりシカ柵ゲートを越えて林道を進んだ終点の駐車場となります。駐車場から少し下った所には「銀嶺水」と呼ばれる天然の湧水があり、多くのハイカーがここで水分補給をします。



最初はダケカンバの林の中の急勾配の道を登ります。太陽の光が差し込む静かな林の道はスカイライン遊歩道とは異なる魅力があります。途中屈斜路湖側の景色を見ることはできませんが、ハイマツ帯を抜けて山頂手前の広場へ出ると、オホーツク海側の開けた景色を見ることが出来ます。この広場でスカイライン遊歩道と合流し、最後の急坂を登れば屈斜路湖とカルデラの大パノラマを一望できる山頂です。

距離	[片道] 約1.0km	時間	[登り] 30分 [下り] 20分
----	-------------	----	----------------------



グレード 2 半日程度の軽登山
山登りの装備はしていますか？

11-3 周回コース

スカイライン遊歩道とその他の4つの遊歩道を繋げば、全長約8.1kmの周回コースとなります。スカイライン遊歩道で山頂に到着した後、約1.0kmの登山道を経由して銀嶺水遊歩道(2.0km)へと進みます。銀嶺水遊歩道の入口には、「銀嶺水」と呼ばれる天然の湧き水と山小屋、そしてパイオトイレがあります。小さな沢を越えて静かな森の中を行く銀嶺水遊歩道はその後トドマツ遊歩道へと繋がります。トドマツ遊歩道を0.4kmほど歩くと分岐があり、望岳台遊歩道へ入ります。遠方に斜里岳を見ながらアップダウンを繰り返して2.4km進むと、スカイライン遊歩道にぶつかります。逆回りも可能です。



周回コースを歩くのに最も適した方法は、大きな駐車場のあるハイランド小清水725を出発地点・ゴール地点にすることですが、コース沿いには、他にも自動車アクセス可能な銀嶺水登山口やハイランド小清水キャンプ場内の登山口があります。

周回コースはアップダウンも多く、変化に富んだ行程を楽しみたい経験者の方におすすめです。

距離	[一周] 約8.1km	時間	[一周] 3時間40分
----	-------------	----	-------------



グレード 3 1日がかりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか？



アクセス

川湯エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)

●藻琴山(スカイライン遊歩道コース)登山口
川湯エコミュージアムセンター→国道391号線・道道102号線(約20分)
→ハイランド小清水725

●藻琴山(登山道コース)登山口
川湯エコミュージアムセンター→国道391号線・道道102号線・林道(約50分)→銀嶺水

注意事項

- ササが茂る場所はダニに注意してください。
- トイレが設置されている箇所がありますが、夏期以外は閉鎖されています。
- 植生保護のためロープが設置されているところがありますので、登山道からはみ出さないようにしましょう。
- 銀嶺水へ向かう林道は狭く、急カーブや急勾配もありますので運転にはご注意ください。

公園内のビジターセンター

国立公園のビジターセンターで旬の自然情報やトレイルの情報を入手してから歩きはじめましょう。

川湯エコミュージアムセンター



摩周エリアの川湯に位置し、自然と人間との繋がりを考え、体験することを目的とした、フィールドと一体となった施設です。エリア内の自然だけでなく、歴史や文化など幅広く解説しています。周辺の散策路も充実していますので、しっかり情報収集してからは是非歩いてみてください。



— アクセス —

釧路・釧路空港方面より(自動車の場合)
●釧路市街→国道391号線(約1時間40分)→川湯エコミュージアムセンター
●釧路空港→道道53号線・国道391号線(約1時間30分)→川湯エコミュージアムセンター

網走・女満別空港方面より(自動車の場合)
●網走市街→国道244号線・国道391号線(約1時間10分)→川湯エコミュージアムセンター
●女満別空港→国道243号線・道道52号線(約1時間50分)→川湯エコミュージアムセンター

中標津方面より(自動車の場合)
●中標津空港→道道13号線・国道243号線・391号線(約1時間30分)→川湯エコミュージアムセンター

— お問い合わせ —

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2丁目2番6号
Tel:(015)483-4100
Fax:(015)483-4111

開館時間
8:00 ~ 17:00(4 ~ 10月)
9:00 ~ 16:00(11 ~ 3月)
毎週水曜日休館
水曜祝日の場合翌日休館
7月第3週 ~ 8月31日は無休
年末年始(12月29日 ~ 1月3日)休館



川湯エコミュージアムセンター 2F National Park Style Cafe

アカエゾマツの森を眺めながら、弟子屈町内で焙煎されたコーヒーや地元産食材を用いたフレンチトーストなどとともに、ゆっくりとした時間をお楽しみいただくことができるスペースで20席をご用意しています。



阿寒湖畔エコミュージアムセンター



阿寒エリアの阿寒湖温泉街の入口に位置し、同エリアの自然情報や特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」を展示している施設です。阿寒エリアとそこに訪れた皆様を結びつけるガイド役ですので、阿寒湖にお越しの際は是非お立ち寄りください。



— アクセス —

釧路・釧路空港方面より(自動車の場合)
●釧路市内→国道240号線(約1時間20分)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター
●釧路空港→国道240号線(約1時間)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター

網走・女満別空港方面より(自動車の場合)
●網走市内→国道240号線(約1時間30分)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター
●女満別空港→国道240号線(約1時間)→阿寒湖畔エコミュージアムセンター

— お問い合わせ —

北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目1番1号
Tel:(0154)67-4100
Fax:(0154)67-2568

開館時間
9:00 ~ 17:00
毎週火曜日休館
火曜祝日の場合翌日休館
年末年始休館



和琴フィールドハウス



摩周エリアの和琴フィールドハウスでは、和琴半島の散策ポイントや動植物をパネル等で紹介しているので、自然情報を入手して和琴半島の散策へ出かけてみてはいかがでしょうか。



— アクセス —

川湯エコミュージアムセンターからの行き方(自動車の場合)
●川湯エコミュージアムセンター→道道52号線・国道243号線(約30分)→和琴半島

— お問い合わせ —

北海道川上郡弟子屈町屈斜路和琴
Tel:(015)484-2835

開館時間
8:00 ~ 17:00(4月下旬 ~ 10月末)
期間中無休



公園内のキャンプ場

公園内には、異なる雰囲気のある自然を楽しめる4つのキャンプ場があります。

砂湯キャンプ場(RECAMP 砂湯)

砂を掘ればたちまち自分だけの露天風呂ができる！そんな楽しい「砂湯」に隣接するのが、このキャンプ場。湖畔のキャンプ場なので、夏はキャンプをしながら水遊びやカヌーを楽しむ利用者で、連日大にぎわいです。

テントサイトは湖畔に面した砂地と草地で、快適な夜が過ごせるでしょう。



— お問い合わせ —

北海道川上郡弟子屈町字美留和

営業期間：6月上旬～10月末

施設：管理棟、炊事場、トイレ

料金等の詳細は下記URLを参照ください

<https://www.nap-camp.com/hokkaido/13247>

和琴キャンプ場(RECAMP 和琴)

和琴キャンプ場は、林間に面したキャンプ場で、固定サイト・フリーサイト・デイサイト(日帰り)と3つに分かれているので、お客さまのニーズに合わせてご利用頂けます！

固定サイトは、それぞれが区画分けされ、床も小砂利で整備されています。

フリーサイトは、一面が広々とした芝生になっているので、お好きな場所へテントを張ることが出来ます。



— お問い合わせ —

北海道川上郡弟子屈町屈斜路和琴

営業期間：6月上旬～10月末

施設：管理棟、炊事場、トイレ、温水シャワー、ランドリー

料金等の詳細は下記URLを参照ください

<https://www.nap-camp.com/hokkaido/14159>

阿寒湖畔キャンプ場

阿寒湖温泉街の端にあるキャンプ場で、百名山でもある雌阿寒岳や雄阿寒岳の近くにあるため、登山客も多く訪れます。キャンプサイトは、バリアフリーに設計され、水洗トイレ、炊事場も整備されています。また、サイト内には足湯があり、ゆっくりと旅の疲れを癒すこともできます。木々に囲まれた中でテントを張り、ゆっくりと過ごすことが出来るキャンプ場です。



— お問い合わせ —

北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉5-1

Tel：(0154)67-3263

営業期間：6月1日～9月末

営業時間：チェックイン 13時/チェックアウト 11時

施設：管理棟、炊事場、温水シャワー、ランドリー、屋根付炉足湯、水洗トイレなど

料金：大人630円、小人315円

オンネトー国設野営場

五色に色を変えるという神秘的な湖オンネトーに接し、トドマツの原生林に囲まれた抜群のロケーションを誇るキャンプ場です。

キャンプ場付近の湖は入江状になっていて、湖面の色の変化も良く観察できます。ただし湖が見渡せるような場所にはテントを張ることはできません。時が止まったような静けさの中で手つかずの自然を満喫して下さい。



— お問い合わせ —

北海道足寄郡足寄町茂足寄国有林内

Tel：(0156)25-2141 足寄町役場経済課

営業期間：6月1日～10月31日(融雪状態により変更あり)

営業時間：チェックイン フリー/チェックアウト フリー

施設：管理棟、炊事場、野外炉、キャンプファイヤー場、トイレ

料金：使用料：大人350円、中学生以下200円

日帰り：大人80円、中学生以下50円